



如意ヶ丘

《発行》平成22年12月1日



関西支部 学校訪問

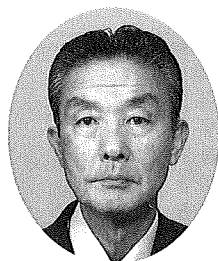


コンピュータールーム



国際交流室

ごあいさつ



会長
牧 亨

会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。今年の夏はこれまでにない猛暑のため、日中の外出も気後れるほどで、夜も熱帯夜が続き、クーラー漬けの日々ではなかったでしょうか。地球温暖化はそのまま進んでいくと思われますが、人類は50年、100年先の気温上昇の変化にどのように対応していくのでしょうか。科学の発達によって、地球の温度を自由にコントロールできる時代が訪れるというのは、やはり空想でしょうか。

さて去る7月10日(土)伏木福祉会館において、遠路より関東如意ヶ丘同窓会ならびに関西支部の役員の方々にもご出席をいただき、平成22年度如意ヶ丘同窓会定期総会が盛大に開催され、旧交を深めることができました。また今年は、役員の変更期であり、はからずも私が引き続き会長に推挙されました。浅学非才ではありますが、皆様のご指導・ご鞭撻のもと精一杯頑張りますので、よろ

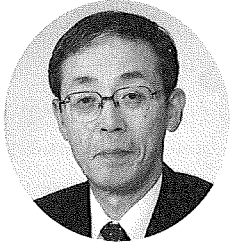
しくお願い申し上げます。

また今年は5月15日の伏木曳山祭りにあわせて、関西支部の皆さんが総勢20名で里帰りをされ、夜の提灯山のキャッチャを堪能されました。翌日は久しぶりに母校を訪問され、周囲の環境や校舎の変わりようや学習施設や運動施設の充実ぶりに感心しておられました。

生徒たちは、国際交流科として選択した語学を学び、短期間ではありますが、海外派遣および受け入れを通じて国際的視野を広めているところです。しかし、尖閣諸島における日本の巡視船と中国の漁船に衝突問題が勃発し、生徒たちが楽しみにしている派遣・受け入れ事業まで悪影響が出ないか心配しております。

おわりに、会員皆様のご健勝、ご多幸をお祈り申し上げます。

＜国際理解をとおして自己理解を深める＞



校長
豊田 久正

平成17年4月の学科改編により県下で初めての「国際交流科」(3学級)が本校に設置されて本年は6年目となります。「志高く、国際的な視野に立つて行動できる人材を育成する」という目標を掲げて、全教職員が力を合わせて取り組んでいます。

7月には、友好提携校の中国遼寧省・大連市第十二中学の生徒32名(3泊4日)と同じく韓国京畿道水原市・清明高等学校の生徒35名(4泊5日)を、そして9月には友好提携校のウラジオストク市・ガルモニア校等ロシアの高校生16名(7泊8日)と、外務省主催の21世紀東アジア青少年大交流計画で来日した中国甘肅省張掖市の高校生30名(1泊2日)の、合計3カ国113名の海外高校生を本校に迎えました。いずれも、本校生徒の保護者の協力を得てホームステイをしながら、学校での授業参加や歓迎行事などで交流を行い、互いの理解を深めることができました。

元国連難民高等弁務官で現在はJICA(国際協力機構)理事長の緒方貞子氏は、「国際理解」というのは、人間としての共通点ということの理解の上に立って、「どんなバックグラウンドをもった人間

とでも同じように接していける」ということだと話しておられますが、そこで大切になるのが語学です。知らない国の異なる文化の中で生活している人を真に理解するうえで語学はととても重要な役割を果たします。英語のほかに第2外国語として中国語、韓国語、ロシア語の中から1つの言語を選択して学んでいる本校生徒は、創立80周年記念事業で創設された「国際教育派遣助成基金」からの助成をいただいて、本年度も2年生を中心とした116名の生徒が、12月に韓国に、そして来年3月にはロシア、米国、中国の友好提携校に出かけ、ホームステイをしながら自らが選択した語学の研修を行う計画をしており、国際理解と自己理解がさらに深まるものと期待しています。

本校の国際交流活動は、主に環日本海という限られた国々との交流ですが、これまでも新型インフルエンザの世界的な流行や世界的な経済不況によるロシア・伏木港間の定期貨客船の廃止、韓国との外交問題(竹島問題)によって大きな影響を受けてきました。本年度は中国との外交問題(尖閣諸島問題)による新たな影響が心配されますが、学校としてはその時々状況を受け止めざるを得ず、生徒の生命安全を第一に丁寧に対応をしていきたいと考えています。如意ヶ丘同窓会々員の皆さまには、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

「関西支部 学校訪問」

如意ヶ丘同窓会関西支部 副支部長 川田 豪之(北高7回卒)

5月15日～16日1泊2日で、総勢20名による関西支部研修旅行(母校訪問・かっちゃ見物)を実施。提灯山の「かっちゃ」を心ゆくまで堪能して、研修旅行の一日目が終わりました。

二日目、天然温泉「越の庭」の朝は清々しく、春露の立山連峰を背にして、晴れやかな気持ちで母校を訪問しました。

懐かしの学校前の坂を上り、バスは「船上に留まったカモメが今にも飛び立とうとしている飛躍の門柱」の正門に入り、ホワイト、アイボリー、グレーとバランスのとれた色調の校舎を目の当たりにして、セミナーハウスへと入りました。部屋の壁には、歴代校長の写真が飾っており、創立八十有余年の歴史の重みを感じました。

牧亨同窓会長より歓迎の挨拶があり、豊田久正校長からは、国際交流科となった母校の教育目標と現況等をお聴きしました。いよいよ校内の案内です。残念ながら休日のため、生徒たちとの交流はありませんでしたが、教室、施設等を通して、母校の現在の姿を知ることができました。

国際交流室「ル・シエール」。「空」という意味だそうです。母校の生徒たちが国際的な視野に立ち、国際交流を深め、伏木の空から大きく羽ばたいていくことを願っての施設とのことです。広い教室の中はガラス窓で仕切っており、自由に出入りすることのできる別室があります。その中はミーティングテーブル、数台の展示ケースがあり、国際交流に関する資料等が展示・収納され、県内外に情報の提供をしているそうです。また文化交流のために和室もあり、お茶のみならず、和

の文化を披露しているそうです。一方、教室の一角には、堀田善衛文庫(芥川賞受賞作家)が並べられてありました。

LL教室。母校では英語のほか、露中韓の第二外国語を履修しているため、「話す、聴く」ためのトレーニング設備が導入されていました。

体育施設でも、第二体育館の一階に人工芝ピロティ。野球部やサッカー部の雨天練習場として利用されています。また体育館の奥にはトレーニングルーム。町のスポーツジムの様で、各種マシーンが並べられており、筋力アップを図っているようです。そのほかに体操競技の機器も常設しており、遠征用のバスもありました。

僅か一時間余りの訪問でしたが、年一回の支部総会で先生方よりお聴きした、国際交流科の学校としての取り組みを、ハード面を通してよく理解できたと感じます。

母校が大きく変貌しており、校門前の坂道のみが記憶のままでしたので、祈念し、「カモメ坂」と名付け、母校訪問を想いかえしながら、下校しました。母校の生徒たちが口ずさんでくれることを楽しみにしております。

最後に、当日お世話して下さいました、母校の先生方、同窓会本部の方々、本当にありがとうございました。

全国の会員の皆様へ、母校訪問をお薦めします。

総会報告

伏木高校如意ヶ丘同窓会

如意ヶ丘同窓会定期総会は、7月10日(土)、16時より伏木福祉会館で開催されました。小泉哲二副会長の進行のもと、同窓会物故者に対して黙祷が捧げられたあと、牧亨同窓会長、豊田久正校長のあいさつがありました。議事は、議長を兼任した牧会長によって進められ、平成21年度の事業報告、会計報告、監査報告をはじめ、平成22年度の同窓会役員案、事業計画、会計予算等、全ての議案が満場一致で承認されました。

続いて、生徒による中国での語学研修の報告があり、ホームステイを通してたくましく成長している生徒の様子に、会場から盛大な拍手が送られました。

その後の懇親会は、終始和やかな雰囲気が進み、お互いに旧交を温めました。最後には、声高らかに伏木商業学校、伏木高校校歌を歌い、勢いそのまま二次会へと引き継がれていきました。

平成二十二年 如意ヶ丘同窓会顧問・役員

卒業回数	職	氏名
北高 3回	顧問	夫夫正治 弘二 雄正 亨行 之志 明二 博司 久利郎 一夫 一司 清
北高 3回	顧問	名和 節 秀安 進 大久 克真 正 邦哲 博昭 正一 健貞 貞利 敬
北高 6回	顧問	山吉 中 林 横 盤 石 豊 牧 戸 山 佐 小 澤 島 数 条 宮 山 牧 山 酒 杉
北高 8回	顧問	氏下 原 尾 田 若 須 田 澤 島 口 野 泉 武 田 田 谷 本 野 下 井 林
北高 13回	顧問	
伏高 20回	顧問	
伏高 38回	顧問	
伏高 16回	会長	伏高 16回 田 谷 本 野 下 井 林
伏高 10回	副会長	伏高 10回 田 谷 本 野 下 井 林
伏高 17回	副会長	伏高 17回 田 谷 本 野 下 井 林
伏高 18回	副会長	伏高 18回 田 谷 本 野 下 井 林
伏高 21回	副会長	伏高 21回 田 谷 本 野 下 井 林
伏高 26回	副会長	伏高 26回 田 谷 本 野 下 井 林
伏高 26回	副会長	伏高 26回 田 谷 本 野 下 井 林
伏高 27回	副会長	伏高 27回 田 谷 本 野 下 井 林
伏高 34回	副会長	伏高 34回 田 谷 本 野 下 井 林
伏高 37回	副会長	伏高 37回 田 谷 本 野 下 井 林
伏高 40回	副会長	伏高 40回 田 谷 本 野 下 井 林
伏高 43回	副会長	伏高 43回 田 谷 本 野 下 井 林
伏高 10回	監査	伏高 10回 田 谷 本 野 下 井 林
伏高 15回	監査	伏高 15回 田 谷 本 野 下 井 林
北高 6回	監査	北高 6回 田 谷 本 野 下 井 林
伏高 12回	監査	伏高 12回 田 谷 本 野 下 井 林

9月26日(日)予定時刻より少し遅れ、午前11時10分より、昨年同様、法善寺近くの洋風宴会場「フェローズ」で集い、同窓会本部からは牧会長、中島副会長、母校からは森田副校長そして関東如意ヶ丘同窓会酒井会長をお迎えし、総勢37名で、第14回如意ヶ丘同窓会関西支部総会が開催された。

総会は、山岡事務局長の司会で始まり、冒頭、全員起立で校友の物故者に対し黙祷を捧げ、ご冥福をお祈りした。杉林支部長の開会挨拶に続き、牧会長からは母校の実情、森田副校長からは国際交流科の学校としての活動報告等の挨拶をいただき、議事に入った。

支部長を議長に選出して始まり、平成21年度の事業報告・収支報告・監査報告・22年度の事業計画案・収支予算案が山岡事務局長・奥会計・川田副支部長(兼)会計監査から報告があり、それぞれ満場一致で可決承認され、平成22年度の活動がスタートした。議案とは別に2点意見が出された。

青木特別幹事より、「如意ヶ丘同窓会」を改名したいとの意見があった件で説明があり、話し合いの結果、従来通りとするが、会員の呼びかけには「伏木高校同窓会」を使うことで承認された。

奥会計・川田副支部長より、国際教育基金への助成の件で説明があり、話し合いの結果、基金に対し一層支援・協力することで承認された。

その後、牧会長より、関西支部への活動助成金が杉林支部長に授与され、一同拍手で謝意を表した。また富山県人社からの祝電披露、出席者全員での記念撮影のあと、会員の拡大・会の発展に尽くす事を決意し総会は終了した。

懇親会が始まるまでの休憩の間、隣の会場には昨年に続き、高田明幹事手作りの能面(小面・節木増・般若)狂言面(空吹・乙)が展

示され、また5月15日～16日両日支部が計画実施した母校訪問・伏木曳山祭見物などのスナップ写真も併せて展示された。

懇親会は、鶴谷副事務局長の司会で始まり、初参加者紹介・酒井会長の乾杯の音頭で開宴となった。プロ歌手の歌を聴き、同窓であるからこそその昔話に花を咲かせ、会長・副会長・副校長は各テーブルの支部会員と親しく語られ、和やかな懇談のできたことは、出席したことの最上の喜びであったことであろう。

やがて人気の「とやま産争奪ジャンケン大会・カラオケ大会」、さらには2人目のプロ歌手の歌を聴き、4時間にも及んだ懇親会もやがて和やかな雰囲気の中で終幕を迎えた。

BGMから流れる伏木商業学校・伏木高等学校の校歌にあわせ、全員が肩を組みながら盛り上がった気持ちをそのままに校歌斉唱。中島副会長の関西支部の発展を祈念しての万歳三唱、川田副支部長の閉会の挨拶・秋元特別幹事による恒例の「一本締め」で、懇親会はすべてめでたく終了した。昔の校友をあたため、思い出話などの楽しいひとときを過ごし、お互いの健康を祝し、変わるのではない友情に感謝し、再会を約した。



「第21回伏木高校卒業生普通科同窓会」

鹿嶋 茂 (伏高21回卒)

8月16日(月)高岡の味処福島において、卒業してから3回目の同窓会を開催した。

猛暑が続く中であつたが、開始の1時間前から参加者が続々と集まってきた。普通科は2クラスだったが、31人の参加となった。なかには30年ぶり40年ぶりの人々もあり、再会を懐かしんだ。開会前に全員で写真を撮り、その後、三角先生をはじめ亡くなられた方々のご冥福を祈って黙祷を捧げた。

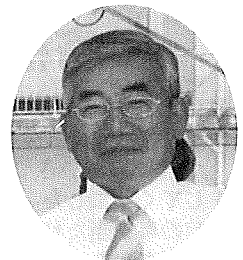
会でははじめに、恩師の加藤先生に挨拶を賜り、乾杯の後、歓談が行われた。加藤先生は喜寿を迎えられ、そして私たちは還暦を迎え、定年になった人、まだまだ元気に働いている人、孫ができてお祖父さんお祖母さんになった人、現在の姿は変われども、昔の懐かしさに感極まった。

恩師にますます元気に過ごされるよう花束を贈呈。2時間の予定が、あっという間に3時間が過ぎた。「毎年同窓会を開こう」という意見もあったが、2～3年後の再会を誓い、万歳を三唱して散会した。おのおの、気のあった者同士が高岡の町に繰り出し、長い夜を過ごした。

「如意ヶ丘同窓会さらなる発展を」…感謝の言葉

山下 利一 (伏高15回卒)

平成6年度総会において役員を拝命してから17年、時の早さに驚いている今日この頃です。思い返せば苦難多難の17年間でしたが、拝命持の役員刷新・その後の支部結成・総会の体制確立(老若男女の参加)・活動資金確保(会報発行等)を通じて、同窓会の基盤が確保されたことと思ひ、ご協力いただきました多くの皆様に感謝しております。



とりわけ会報発行に際しての寄稿・広告掲載、また総会に際してのチケットの購入等、先輩諸氏には格別のご支援をいただきましたことにつき、心より御礼を申し上げます。

平成22年度の総会で役員改選があり、この度副会長を退任し、監査に就任することとなりました。「如意ヶ丘同窓会 さらなる発展」を祈念し、今までの経験を生かし陰ながら協力をしていく所存でございます。よろしくお願ひ申し上げます。

平成二十一年度 如意ヶ丘同窓会関西支部役員

卒業回数	役職	氏名
商 9回	顧問	麦谷 憲明
北高 1回	〃	本田 元三
北高 1回	特別幹事	秋 常陽
北高 6回	〃	青木 勝一
北高 6回	〃	高田 昌彦
北高 6回	〃	杉林 清之
伏高 12回	支部長	川田 豪
北高 7回	副支部長(兼)会計監査	山岡 巖
伏高 16回	事務局長	鶴谷 正昭
伏高 16回	副事務局長	奥 誠三
北高 7回	会計	山本 美和
北高 8回	幹事	高田 明
北高 9回	〃	麦谷 忠男
北高 9回	〃	横森 住江
伏高 12回	〃	西井 昭松
伏高 14回	〃	西川 敏雄
伏高 20回	〃	

平成二十一年度 関東如意ヶ丘同窓会役員

卒業回数	役職	氏名
商 10回	顧問	夫助正亨
商 10回	〃	久敬彩晴
商 13回	〃	京浩龍尚
伏高 16回	〃	田井山 俊隆
北高 6回	〃	田井山 子明
北高 3回	〃	金子 二夫
北高 6回	〃	武子 二子
北高 7回	〃	治範
北高 8回	〃	美清
北高 9回	〃	子夫
北高 11回	〃	武子
伏高 12回	〃	二子
北高 6回	〃	治範
伏高 10回	〃	美清
伏高 16回	〃	子夫
伏高 19回	〃	武子
伏高 26回	〃	二子
伏高 30回	〃	治範
伏高 17回	〃	美清
伏高 14回	〃	子夫
伏高 17回	〃	武子

国際交流

本校は平成17年4月より国際交流科に学科改編され、これまで3度卒業生を輩出しています。生徒はロシア語・中国語・韓国語のいずれかを第2外国語として学習しており、2年次には全員が自らの選択した第2外国語を母語とする国の友好校へ語学研修に出かけるという全国的に見ても類を見ない取り組みをしています。
今回は、中国語学研修に生徒を引率した教員の感想を紹介します。

中国高校生の現況と本校生徒に望むこと

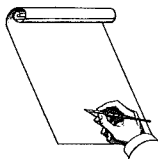
高田 友子 (伏高35回卒、本校教諭)

今回、中国語学研修のために生徒を引率して大連を訪問させていただく機会を得たが、四半世紀ぶりに訪問した大連は、空気が澄んで街並みも美しく、大都会に変身していた。かつて高3の夏、陸上競技の親善試合のために訪問したときはまったく別の世界であった。当時、道路いっぱい広がって走っていた自転車はなく、大渋滞を招く車社会となっていた。

不安を抱えながら大連の地に降り立った生徒たちは街並みを見て一安心したようで、車窓を眺めながら期待に胸を膨らませて大連市第十二中学に向かった。中学では我々の訪問を熱烈に歓迎していただき、ホームステイ先の生徒たちも満面の笑顔で迎えてくれた。歓迎式後の交流会では、彼らの踊りや演奏のパフォーマンスのレベルの高さに感服した。授業も拝見させていただいたが、30クラスすべての教室に生徒への叱咤激励の文字板が掲示されており、それに応えるかのように生徒たちは真摯な態度で授業に取り組んでいた。経済格差の激しい中国では人口の割に大学が少なく、その狭き門に入るために相当のプレッシャーがかかっているようであった。こうした第十二中学の生徒たちの学習ぶりや大連経済開発地区に林立する大規模なビルを目の当たりにして、中国の勢いが大きな足音を立てて日本に迫っているような危機感を感じた。

本校の生徒たちは、ホームステイ先で十分な愛情を注いでもらい、その気持ちに答えようと必死になってコミュニケーションを図っていた。最終日、共に抱き合い涙して別れを惜しむ生徒の姿があらこちらで見られ、言葉よりも心が通じあうことが何より大切であることを身をもって体験したようである。

生徒たちには、異国の地でホームステイするという全国的にも希な取り組みに参加したことを誇りに思い、伏木港の帆船が海の向こうに焦点を定めながらもどっしりと礎を沈めているように、将来は、グローバルな視野を持ちつつも地域に根ざした形で社会に貢献できるような人物となって活躍してくれることを期待したい。四半世紀ぶりに中国を訪れ、その大きな変化をこの目で確かめることができたことは、私個人にとっても大きな収穫となった。自分の後輩にあたる生徒たちとともに、このような貴重な体験をさせていただいたことに心から感謝したい。



同窓生 寄稿欄

教育実習を終えて

北 隼也 (伏高59回卒)

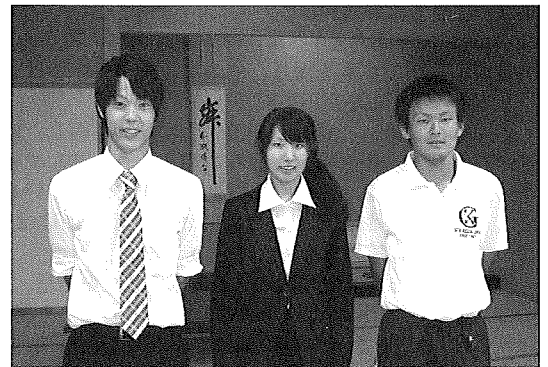
私は5月の下旬から3週間、伏木高校で教育実習をさせて頂きました。この実習を通して、生徒の皆さんの良さを3つ発見することが出来ました。

1つ目は、あいさつです。私とすれ違う度に、元気でさわやかなあいさつをしてくれました。あいさつをするのは、当たり前な事です。しかし、当たり前な事を当たり前にするのは簡単な事ではありません。当たり前でさわやかなあいさつが出来る生徒の皆さんには、とても好感をもてました。

2つ目は、ベストを尽くすことです。体育大会で生徒の皆さんの一生懸命な姿に感動しました。とくに、応援合戦の時です。赤団の演技中に放送器具がショートしてしまうというハプニングが起こりました。しかし、赤団の皆さんは、自分たちで曲を歌って最後までやり遂げました。想定外の事にも、赤団が1つになって乗り切ったことは本当に素晴らしいと思います。

3つ目は、優しさです。私が教育実習を無事に終えることが出来たのは、先生方のご指導はもちろん、生徒の皆さんのおかげです。教壇に立って授業をしてみると、失敗の連続でした。緊張をしてあせりながら説明をしたり、学習内容のポイントをうまく伝えられなかったりしました。自分の不甲斐なさを痛感しました。それでも、生徒の皆さんは、最後まで真剣に授業を受けてくれました。また、「今日の授業は楽しかった」という言葉もかけてくれました。それが、本当に励みになって実習をやりきることが出来ました。

実習中お世話になった先生方、生徒の皆さんのおかげで一生忘れることの出来ない3週間で過ごすことが出来ました。本当にありがとうございました。末筆ながら、伏木高校の益々のご発展をお祈り申し上げます。



(今年度の教育実習生) 左から原 健太、畑ひさの、北 隼也

三北 回 卒 代 表 山 下 和 夫	三北 回 卒 代 表 山 下 和 夫	八北 回 卒 代 表 山 下 和 夫	八北 回 卒 代 表 山 下 和 夫	九北 回 卒 代 表 山 下 和 夫	十伏 回 卒 代 表 山 下 和 夫	十伏 回 卒 代 表 山 下 和 夫	十伏 回 卒 代 表 山 下 和 夫	十伏 回 卒 代 表 山 下 和 夫	十伏 回 卒 代 表 山 下 和 夫	十五 回 卒 代 表 山 下 和 夫	十五 回 卒 代 表 山 下 和 夫	十六 回 卒 代 表 山 下 和 夫
山 下 和 夫	山 下 和 夫	山 下 和 夫	山 下 和 夫	山 下 和 夫	山 下 和 夫	山 下 和 夫	山 下 和 夫	山 下 和 夫	山 下 和 夫	山 下 和 夫	山 下 和 夫	山 下 和 夫
山 下 和 夫	山 下 和 夫	山 下 和 夫	山 下 和 夫	山 下 和 夫	山 下 和 夫	山 下 和 夫	山 下 和 夫	山 下 和 夫	山 下 和 夫	山 下 和 夫	山 下 和 夫	山 下 和 夫



＝名物先生からのメッセージ＝
多彩であった伏木高校職員室

佐野 正次 (旧職員) //



私は、三八豪雪の明けた昭和三十八年初頭、米田順治校長先生に声をかけられ、四月伏木高校に着任致しました。ところが、案に相違して校長先生は、高橋一寸先生に交替しておられました。

この先生は、土佐の出身とか。体格も立派な方でした。校内での先生は、校長室で静かに読書をしておられる事が多かったように思います。ある時、所用があって校長室に伺った折、「先生、何をお読みですか」「やア、昔、読みたかった本を今頃読んでいるのだよ」と静かに笑っておられました。私が今でも尊敬する先生の一人である理由は、我が身の立身出世など、全く念頭

になく、事に当たっては、世評を全く意に介することなく、どんな時でも、よく他人の意見を聴き、慎重熟慮、そして出した結果は果敢に実行される姿を目の当たりに見ていたからでしょうか。

当時、普通科三学級、商業科四学級の計七学級でしたが、学年主任をしながら、こんな姿を毎日、身近に見聞できました。

ところで、職員室はどうだったでしょうか。人気抜群の異才、佐藤凡鉄先生(化学)、包容力豊かな教頭の山口久雄先生(国語)、囲碁の強い豊田先生(歴史)、生徒から「知性と教養が物を云う」と称えられた数学の伊藤先生、情熱の魂、本郷先生、研鑽深かった陸田先生(生物)、社会科の遊田先生等々、一方、商業科には、生涯一学校を貫かれた高井政一先生をはじめ、設立当時より富山商業・高岡商業と肩を並べた伏木商業学校であっただけに、錚々たる先生方が活躍しておられました。

職員室の様相は勿論、時代とともに動き、変化をしていきます。中堅実力派が揃った時代、若手の俊秀が学校を動かした時代もありました。その時代々々に名を馳せた多くの先生方を、今懐かしく思い出しております。

こんな先生方の姿に、毎日身近に接しながらともに生活できた私は、本当に果報者であったと、有難く思っております。伏木高校での生活は、忘れ得ぬ大切な日々でした。自分の財産でもある思い出となりました。

最後に、卒業生諸兄、諸姉を含めて、伏木高校総体の更なる発展を祈り、終わりと致します。
(昭和38～49年度、昭和58～60年度在職)

第31回富山県
高校OB対校ゴルフ大会

日時 平成22年6月6日(日)
場所 高岡カントリー倶楽部

母校の名誉をかけ、参加29校が熱戦を展開し、我が校は健闘し、6位でした。

<出場者>

- 矢坂 誠 (伏高15回)
- 増井 修 (伏高22回)
- 中山 勝儀 (伏高15回)
- 細川 信雄 (伏高15回)
- 桶谷 実行 (伏高20回)
- 絹谷 喜正 (伏高17回)
- 澤武 博 (伏高26回)
- 川端 博之 (伏高13回)

親子三代伏木高校野球部

条谷 正利 (伏高37回卒)

今年、長男が我が母校に入学し、野球部に入部した事で同窓会報に寄稿する事になりました。私は、第三十七回卒業。父も、第十一回卒業生です。

それでは少し私のお話にお付き合いいただこうと思います。父の世代の伏高野球部は全盛期だったと本人からよく聞きます。卒業後にノンプロや軟式実業団野球に進む先輩達が多くいらっしゃったようで、父もその一人。高校時代はセンターで三番を打っていたと、当時の事を私や孫に話をして酒を飲むのが父は楽しいようです。

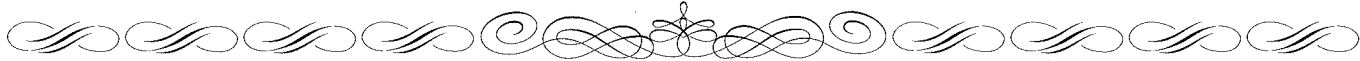
私は、高校の合格発表当日から練習に参加していて、春休みはずっと野球ばかりしていたことを記憶しています。当時一年生の私は、練習態度が悪かったり怠慢プレーをしたりしたら、三年生のある先輩が殴られたりダッシュをさせられたりしていたため、怖くて気持ちの抜けない練習をしていました。その甲斐あってか、一年から公式戦に出場していました。三年生引退の日、怖い先輩から、使っていたヘルメットを手渡され「これからおまえが使い」と言われた時、嬉しさ反面、一年先輩の目が気になったのを覚えてします。新チームは、一年八人、二年四人のチームでした。少ない人数でしたが、富山県内ではレベル的にはまあまあ。京都市西高校、大府高校など県外のチームとの遠征試合もしてきました。当時は家族、OB、地域も力が入っていたのだと実感しています。

三年間での最高成績はベスト8でしたが、一番忘れられないのは、三年の夏の選手権のベスト8を賭けた試合でした。対氷見高校、緊迫した試合で延長戦にもつれこみ、ノーアウト満塁の絶好の場面。「3番キャッチャー条谷君」のアナウンスで私が登場。もちろん誰もが点数が入ると信じている場面です。自分自身もこの時は「自分で試合を決められる」と変に自信満々で打席に入り、初球から手を出してピッチャーゴロのダブルプレー。そのあと4番敬遠、5番外野フライでチェンジ。その裏、氷見高校4番の同じ中学校でバレーボール部だった同級生にスタンドに放り込まれて試合は幕を閉じました。野球の怖さや自分の不甲斐なさに落ち込み、それまで大学野球を考えていた自分でしたが、それも断念し、野球部のない魚津の短大に進みました。その後神奈川にある企業に就職、二十四歳で会社を辞めて家業を手伝うようになり、その頃からまた取引先の野球チームで野球を始めました。最近では息子に「行け行けでは野球は勝てない」とよく野球の理論をしている今日この頃です。

今度は息子たちに甲子園の夢を実現できるよう、切磋琢磨してあきらめないうで一歩ずつ前に進んでもらいたいと思います。



伏高 十七回卒 代表取締役 神島高志	伏高 十七回卒 代表取締役 中島貞之	伏高 十八回卒 代表取締役 山口正志	伏高 二十回卒 代表取締役 佐野邦明	伏高 二十六回卒 代表取締役 小泉哲二	伏高 二十六回卒 伏木支店 支店長 澤武博	伏高 二十七回卒 院長 井上人士也	伏高 二十七回卒 取締役 島田博司	伏高 三十二回卒 代表取締役専務 松嶋浩二	伏高 三十四回卒 代表取締役 数田昭久	伏高 三十七回卒 代表取締役 条谷正利	伏高 四十回卒 代表取締役 宮越一郎
---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	----------------------------------	------------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	------------------------------------	----------------------------------	----------------------------------	---------------------------------



～国際交流科ならではの進路実現～

進路指導主事 高澤 真穂美

国際交流科の第3期生(113名)の進路状況については、国公立大4名、私立大61名、私立短大22名、専門学校36名、就職16名となっています。国公立大学については、金沢大(国際地域学類)、富山大(人文学部、経済学部)、新潟県立大学(国際地域学部)の計4名(第1期生9名、第2期生4名)と国際交流科ならではの進路先となっています。

景気の低迷を反映し、資格志向、地元志向が強まる傾向にあり、大学短大進学者のうち28%(昨年24%)が富山県、30%(昨年25%)が石川県と、地元志向がより強まっています。また、専門学校進学者の約70%が医療・衛生系へ、76%が県内へと進んでいます。

就職状況も厳しいものがあり、公務員志望者が増加、一般企業も1社目の応募で内定を得ることが難しくなっています。

今年度の大学入試センター試験志願者は44名が出願しており、今後の成果に期待をしているところです。

同窓会の皆さまには、本校生徒の進路実現のために、今後一層のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

平成21年度 進路別現役合格者数 (延べ数)

	人数	主な進路先
国公立大学	4名	金沢1・富山2・新潟県立1
私立大学	61名	駒沢・中央・帝京・法政・文教・明海・愛知学院・名古屋学院・名古屋経済・名古屋商科・岐阜経済・京都学園・龍谷・追手門学院・大阪経済法科・大阪国際・富山国際・北陸・金城・金沢学院・金沢・星稜・金沢工業・福井工業 など
私立短大	22名	富山・富山福祉・華頂・大妻女子大学短期大学部・立教女学院 など
専門学校	36名	富山県立保育・高岡市立看護・高岡市医師会看護・厚生連高岡看護・富山市外国語・富山県技術・富山理容美容・石川理容美容 など
就職	16名	加越能鉄道株式会社・(株)TAN-EI-SHA・高岡市農業協同組合・第一編物株式会社・日本貨物検査協会・株式会社中村機械・自衛隊・富山県警察官・高岡消防署 など

部活動報告

Fushiki High School

◇◇◇ 平成22年度 部活動の記録 ◇◇◇

〈体操部〉

- 富山県高等学校春季大会 体操競技
 - 女子個人総合 第1位 西塚明日香(2年)
 - 第3位 松田 奈々(1年)
- 富山県高等学校総合体育大会 体操競技
 - 女子個人総合 第1位 西塚明日香(2年)
 - 第3位 松田 奈々(1年)
 - 女子団体 第1位(31年ぶり6度目)
 - 西塚明日香(2年)、松田 奈々(1年)、上坂 未来(1年)
- 富山県ジュニア体操選手権大会
 - 女子A個人総合 第2位 西塚明日香(2年)
 - 第3位 松田 奈々(1年)
- 富山県民体育大会 体操競技
 - 少年女子個人総合 第1位 西塚明日香(2年)

〈陸上部〉

- 高岡市長杯
 - 男子110mH 第2位 田中 勁有(3年)
 - 男子三段跳 第2位 高田 繁(3年)
 - 女子やり投 第2位 澤井 彩夏(2年)
- 富山県高等学校陸上競技対校選手権大会
 - 女子やり投 第1位 澤井 彩夏(2年)
 - 男子三段跳 第8位 高田 繁(3年)
- 富山県高等学校陸上競技新人対校選手権大会
 - 女子やり投 第1位 澤井 彩夏(2年)

北信越高等学校新人陸上競技大会

- 女子やり投 第1位 澤井 彩夏(2年)

〈美術部〉

- 富山県青少年美術展 絵画部門 入選 大坪 由佳(3年)
- 山下利佳子(3年)

〈書道部〉

- 岐阜女子大学全国書道展
 - 特賞 加門 千晶(1年)
 - 奨励賞 嘉藤 美帆(1年)
 - 須賀 晴絵(1年)
 - 杉本 遙花(1年)
- 富山県青少年美術展 書道部門 入選 原 茜(2年)

〈琴部〉

- 全国高等学校総合文化祭宮崎大会 文化連盟賞

〈その他〉

- 富山県高等学校総合体育大会 水泳競技
 - 男子200m個人メドレー 第2位 小橋 孝征(2年)
 - 男子50m自由形 第7位 小橋 孝征(2年)
- 富山県高等学校総合体育大会 ボクシング競技
 - ライト級 第2位 松村 秀樹(2年)
- 全日本中国語スピーチコンテスト富山県大会
 - スピーチ高校生の部 第2位 屋敷紗也加(3年)
 - 朗読の部 第3位 大門あかね(2年)

INFORMATION

- ①寄稿の件 本会報に掲載する原稿を募集致します。
(学生時代の記憶に残る体験、経験談、思い出話等) 皆様のご協力を頂き、より充実した紙面を目指していきたくと思っております。なお、原稿は1,000字以内でお願いします。
- ②会報広告の件 会報広告を募ります。皆様方のご協力をお願いします。
- ③如意ヶ丘グリーン会参加者募集 毎年4月第2土曜日
- ④学校のホームページと同窓会のメールアドレスです。ご利用下さい。
ホームページ <http://www.tym.ed.jp/sc354/>
メールアドレス dousoukai@fushiki-h.tym.ed.jp
- ⑤来年度の定期総会を平成23年7月9日(土)に予定しています。

受付窓口 富山県立伏木高等学校 事務局TEL0766-44-1514 FAX0766-44-1707

編集後記

会報第16号をお届けします。本年は如意ヶ丘同窓会関西支部が、伏木曳山祭にあわせて総勢20名で本校を訪問されました。久しぶりに里帰りされた会員が多く、母校の変貌ぶりに驚いておられました。同時に、国際交流科に学科改編された本校の生徒の将来に大きな期待を寄せておられました。また5年ぶりに全会員に会報を送付させていただく今回は、海外研修という経験を積んだ生徒たちへの想いも記事として掲載しました。ご一読下されば幸いです。